

# 2024年度大学入学共通テスト・分析表 科目 政治・経済

## ■ベネッセ・駿台共催／データネット実行委員会

— 読解力や計算力が求められ、解答に時間を要する問題が目立った。昨年より難化 —

「倫理、政治・経済」との共通の設問が4大問中3大問で出題された。経済分野からの出題が増加し、国際政治分野・国際経済分野の出題が減少した。全大問において、文献・判決文・統計・模式図などの多様な資料を読み解く力や、計算が求められる出題が目立ち、差がついたと思われる。昨年より難化。

### 1. 全体概況

【大問数・解答数】	大問数4、解答数30個で昨年から変更なし。第2問・第3問・第4問の一部は「倫理、政治・経済」との共通問題。
【出題形式】	昨年と比べて、組合せ問題が16問から23問に増加し、文章選択問題が10問から6問に減少した。6択以上の問題が11問から20問に増加した。また、模式図を選択する問題が出題された。グループワークで論点やキーワードを整理した関連図など、全大問が生徒の学習活動や体験の場面設定から展開された。
【出題分野】	昨年と比べて、経済分野からの出題が増加し、国際政治分野・国際経済分野の出題が減少した。各分野を融合した出題がみられた。
【問題量】	ページ数が増加（36→39）し、昨年よりやや増加。
【難易】	昨年より難化。

### 2. 大問別分析

#### 第1問「成人年齢の引き下げと生活の変化」（26点・難）

政治分野・経済分野からの出題。問5では有効求人倍率の資料をもとに、労働市場における需要と供給について概念的な理解が問われた。また、問8では時事的内容としてこども家庭庁についても問われた。

#### 第2問「さまざまな団体・集団の働きについて」（25点・やや難）

政治分野・経済分野からの出題。メモや原典資料などの文章資料が多用された。問3では内閣人事局が選択肢として出題された。問8では臓器移植法改正前後において、本人の書面による意思表示と家族の同意の有無について問われた。

#### 第3問「経済成長とグローバル化」（25点・難）

経済分野・国際経済分野からの出題。知識をもとに、計算や思考力を求める問題が目立った。問4ではGDPデフレーターについての知識と、具体的な計算が求められた。問6では景気循環について、在庫や設備投資の資料を考察する必要があった。

#### 第4問「国際社会の理論と動向」（24点・標準）

政治分野・経済分野・国際政治分野・国際経済分野からの出題。グループワークを題材として展開され、政治・経済の各分野が多岐にわたって出題された。問1はグロティウス・ホブズ・ロックを取り上げながら原典が問われた。問6は環境・人権を問いながら、経済安全保障推進法という新しい法律について出題された。

### 3. 過去5カ年の平均点（大学入試センター公表値）

年度	2023	2022	2021	2020	2019
平均点	50.96	56.77	57.03	53.75	56.24